

学校法人日本体育大学 法人事務局 総合企画部

TEL : 03-3704-5203

FAX : 03-3704-3342

体育・スポーツ・健康づくりの交流で地域を活性化する

**NITTAIDAI** × **自治体**

フォーラム2016 *Report*

2016.12.9 *Fri*

〈会場〉 帝国ホテル 東京 本館3階 富士の間

# 学校法人日本体育大学とともに これからの「体育・スポーツ・健康づくり」を 語り合い、学び合う

日本全体の人口減少や少子高齢化、厳しい財政事情とともに、経済のグローバル化の進展や、新興国の台頭など世界の経済の環境変化が著しい昨今、「地方再生・創生」は、国が掲げる重要課題です。学校法人日本体育大学が、地方自治体と手を取り合い、体育・スポーツを通じた地域活性に取り組みはや2年。その成果は着実に実を結び始めています。



## 式次第

- 16:00 開会
- 16:05 理事長挨拶 学校法人日本体育大学 理事長 松浪 健四郎
- 16:10 学長挨拶 日本体育大学 学長 谷釜 了正
- 16:15 セミナー
  - 1 基調講演 島根県隠岐郡海士町 町長 山内 道雄 氏
  - 2 事例発表① 富山県氷見市 市長政策・都市経営戦略部  
スポーツ文化マネジメント室長 鎌仲 正寿 氏
  - 3 事例発表② 広島県呉市 文化スポーツ部 副部長(兼)スポーツ振興課長 河下 寿昭 氏
- 17:40 特別講演 自由民主党 幹事長 二階 俊博 氏
- 18:10 協賛企業講演 西川産業株式会社 スリープマスター 杉原 桃菜 氏
- 18:30 懇親会 乾杯:学校法人日本体育大学 常務理事 今村 裕  
リオ パラリンピック 銅メダリスト 辻 沙絵 選手紹介  
中締:日本体育大学 副学長 具志堅 幸司

協賛：西川産業株式会社

## 理事長挨拶

学校法人日本体育大学 理事長 松浪 健四郎



東京オリンピックとパラリンピックのムーブメントを全国に普及・展開し、地方創生に臨む全国自治体の皆さまのお役に立ちたい、という思いから、体育・スポーツ・健康づくりを軸とした当交流はスタートを切りました。現在は45の自治体と協定を締結し、多様な企画に協力させていただいていることを、大変うれしく思います。

先のリオオリンピックにおいて、日体大のメダリスト輩出数は、世界の大学中9位にランキングされました。この結果を誇りに思うと同時に、オリンピック・ムーブメントをリードする大学として、蓄積した知見を国民の皆さまにフィードバックしていこうと考えています。

2020年の東京は間近に迫っています。私たちは、恒久平和への努力、大規模自然災害からの復興を謳うとともに、平均寿命世界一の日本国民一人ひとりが長く健康に生きること、すなわち健康寿命の伸長をレガシーとして残していく必要があります。皆さまには、住民の健康づくりのため、また、活気あるまちづくりのために、日体大のリソースを徹底的にご活用いただけるよう願っています。

## 学長挨拶

日本体育大学 学長 谷釜 了正



私たち日体大は、地方自治体との連携を通してスポーツを振興し、2020年に控える東京オリンピック・パラリンピックへの理解を広く得るとともに、高齢者に健康を提供し、子どもたちに夢をプレゼントするという試みを継続しています。

2年の活動の成果として、まずは日体大と45の自治体の皆さまとの縦糸は、しっかりと結ばれたのではないかと思います。今度は、各自治体の皆さま同士が本フォーラムを通して関係を緊密にしていだければ、自ずと横糸もつながっていくのではないのでしょうか。そうした縦横の情報交換によって、立派な地方創生が紡がれることを期待しています。

また、2013年から日体大は、体罰やパワーハラスメントの問題に取り組んできました。4年間の研究を通して、私たちはいくつかの財産を得ています。スポーツ指導における反暴力・反体罰の成果についてお尋ねいただければ、積極的に皆さまに還元していきたいと考えています。

## 基調講演

### ないものねだりをせず、離島らしさを磨くことから始まった島の活性化

島根県隠岐郡海士町 町長 山内 道雄 氏



島根半島沖合約60kmに浮かぶ隠岐諸島、そのひとつである中ノ島「海士町」は人口約2,400人の小さな島です。2003年の「三位一体改革」では、地方交付税や補助金が大幅に削減され、公共事業に頼った行財政が成り立たない状況に陥り、2008年には財政再建団体に転落すると目されました。

島が生き残るためには、徹底した行財政改革を断行する必要があります。まずは町長である自身の給与を大幅にカットしたのです。すると、職員が次々と給与削減を申し出てくれました。これが「守り」の改革です。一方で、「攻め」の戦略として産業創出を強力に推進していきました。海士町のロゴにあしらった「ないものはない」というキーワードには、都会のように便利ではないが、ないものねだりはせずに島らしい生き方や魅力を磨いていこう、という思いが込められています。このような考えのもと、岩牡蠣や白いかなど豊富な水産資源や隠岐牛を商品化して首都圏へと送り出したところ、幸いにして大変な好評を博しました。

島をまるごとブランド化することで、1ターンの若者が増え、島民と協力したビジネスが活性化しました。かつて統廃合の危機にあった島唯一の高校である隠岐島前高校にも、「島留学」制度などの改革を実施し、今では全国から多くの志望者が集まっています。島に来る人と、受け入れる私たち。双方の高い志が、地方創生には欠かせません。本取り組みは、島外との交流をいっそう深め、新たな知恵を生み出す契機として大きく期待をしています。

## 事例発表①

### 日体大と連携を通して、次代を担う子どもたちの健康な体と心を育てていく

富山県氷見市 市長政策・都市経営戦略部 スポーツ文化マネジメント室長 鎌仲 正寿 氏



富山県氷見市は2015年7月3日に、日体大と「体育・スポーツ振興に関する協定」を締結しました。富山県では、子どもの体力低下が懸念されています。平成27年度の中学2年生の体力・運動能力調査では、男子19位、女子25位と成績が振るいません。さらに、小学生の肥満度ランキングにおいては氷見市が県内1位

となっております。体力の向上はまさに喫緊の課題といえます。

そこで日体大にご協力いただき、まずは保育園児、幼稚園児を対象に、運動遊びを好きになってもらおうという試みを始めました。その第1弾が「『日体幼稚園』公開保育見学会・講演会」です。2016年2月20日に、丸山前園長先生をはじめ3名の先生方を上庄保育園にお招きし、公開保育や実践発表を行っていただきました。園児たちは、夢中になって汗をかき、目いっぱい体を動かす楽しさを実感できたのではないのでしょうか。第2弾は、同年7月17日の「幼児の運動指導研修会」です。市内の保育士会や子育て支援課などの要請を受けて実施したもので、指導者の育成を目標といたしました。日体大の白旗教授に講演とワークショップを開いていただき、幼児期の運動指導について多くの貴重な助言を頂戴しました。

保育園児、幼稚園児から始まった連携事業ですが、今後は小・中学生へとつないでいくことを考えています。そして、近い将来にも氷見市の子どもたちが体力・運動能力調査で県平均を上回り、肥満度ランキングで「最下位」になることを目標に掲げる次第です。

## 事例発表②

### トップアスリートとの関わりから、スポーツ王国呉の復活を目指す

広島県呉市 文化スポーツ部 副部長（兼）スポーツ振興課長 河下 寿昭 氏



呉市体育協会創立100周年を記念して、2015年11月22日に日体大の学生が集団行動を披露してくれました。このイベントをきっかけに、呉市と日体大は協定を結ぶことになりました。

連携事業については、呉市最大のスポーツイベントである呉とびしまマラソン大会に、日体大の陸上選手2名が参加して

くださったことが始まりです。会場に来ていた小・中学生は、選手の走るスピードに驚き、感銘を受けていました。第2の事業としては、日体大剣道部の方々を招き、中学校剣道部の生徒に指導をしていただきました。また、第3の試みとして、呉市の小・中学生や指導者を日体大キャンパスに派遣し、トップレベルの選手および大学の指導者の方々からご指導を仰ぎました。3泊4日の合宿では、パラリンピックの壮行会やオリンピックメダリストの講話にも参加させていただき、子どもたちは諦めずに努力することの大切さを学んだものと思います。4つ目は、呉市健康の日ウォーキング大会で、元体操選手である田中理恵助教に講演をしていただきました。地元小学生と観客に教えてくださった日体体操は、後日、本格的に学びたいという要望の声を多くいただいています。

このような連携事業を通して、専門的的確な指導をたまわるなど、とても大切な経験をさせていただきました。今後ともこの連携事業をますます発展させ、スポーツ王国呉の復活を目指すとともに、スポーツによって呉市を元気にしていきたいと考えている所存です。

## 協賛企業講演

### 健康維持に必要な不可欠な睡眠の面から、アスリートをサポートしていく

西川産業株式会社 スリープマスター 杉原 桃菜 氏



2016年、西川産業株式会社は創業450周年を迎えることができました。創業当時は蚊帳の製造販売をしていましたが、現在は、睡眠の面からアスリートのサポートも行っています。他にも全国の旅館やホテル、病院、介護施設などに寝具の導入を行い、健康寿命の延伸や地方創生に取り組んでいます。

現在、睡眠に対して悩みを持っている日本人の比率は68.7%といえます。睡眠不足は、認知機能の低下や肥満、抑うつなどのリスクを増大させるという研究結果が出ています。食事や運動と同様に、適切な睡眠は健康維持に不可欠といえるでしょう。

では、質の高い睡眠に必要な要素は何でしょうか。身体には、体温が下がり始めるときに眠気が高まるというメカニズムが備わっています。寝る前に身体を温める習慣をつけることにより、手足からの放熱が進み、スムーズに入眠することができます。特に入眠後3時間は最も睡眠が深いため、この時間帯に最も大きく睡眠の恩恵を受けることができます。睡眠中には、真っすぐ立っているときの姿勢をなるべくキープすることが大切です。そして、姿勢をキープするためには、身体を支える寝具が重要になってきます。当社の「エアー」というマットレスは、約1,900の凹凸が体にフィットし、血液の流れを妨げにくい4層特殊立体構造になっています。当社の研究機関は、様々な大学と共同研究を重ね、良質な睡眠を追究しています。これからも、研究成果を皆さまのお役に立ててまいります。

## 特別講演

### 数々の災害経験を生かし、強靱な日本の基盤をつくる

自由民主党 幹事長 二階 俊博 氏



阪神淡路大震災の現場を目の当たりにし、災害における初動対応や早期復興の重要性を痛感して以来、「国土強靱化」というテーマに取り組んでまいりました。東日本大震災以降は、津波対策推進法や国土強靱化基本法の制定のために奔走した次第です。災害時の人命救助については、「稲むらの火」という逸話が

あります。およそ160年前に安政南海地震が発生し、和歌山県の広村が津波に襲われました。兆候に気づいた住民の一人は、自らの稲むらに火をつけ、村人たちを安全な高台へと誘導したということです。この教訓を世界に伝え、一人でも多くの命を救いたいという思いから、2015年の国連防災世界会議において「世界津波の日」の制定を提唱いたしました。数々の災害に見舞われた日本だからこそ、率先して世界の皆さまと連帯し、自然災害に対峙せねばならないのです。同年、「世界津波の日」は国連総会本会議にて全会一致のもと採択されました。「世界津波の日」の啓発活動として、2016年には高校生サミットを開催。高知県黒潮町に、世界29カ国246名、国内110名の高校生が集い、津波災害について学ぶとともに今後の課題や取り組みなどを発表しました。彼らには津波防災大使として、防災・減災分野のリーダーとして活躍することを期待しています。

本日お集まりいただいた有識者の皆さま、市町村の指導者の皆さまにご協力いただき、これからも世界の人々との連帯を大切にしながら、自然災害に立ち向かうべく奮起いたしましょう。

### フォーラム2016 参加自治体一覧

～ 全国から45の自治体に参加 ～

※締結順に掲載

美作市(岡山県)	七尾市(石川県)	呉市(広島県)	海士町(島根県)	品川区(東京都)
愛知県	志賀町(石川県)	柳井市(山口県)	男鹿市(秋田県)	笠間市(茨城県)
紀の川市(和歌山県)	島原市(長崎県)	阿南市(徳島県)	可児市(岐阜県)	狭山市(埼玉県)
泉佐野市(大阪府)	中間市(福岡県)	中標津町(北海道)	東松島市(宮城県)	中山町(山形県)
北山村(和歌山県)	氷見市(富山県)	三種町(秋田県)	小田原市(神奈川県)	別府市(大分県)
小菅村(山梨県)	神崎町(千葉県)	みなべ町(和歌山県)	香美町(兵庫県)	宮古市(岩手県)
網走市(北海道)	上越市(新潟県)	守山市(滋賀県)	徳之島町(鹿児島県)	始良市(鹿児島県)
江南市(愛知県)	大山崎町(京都府)	厚木市(神奈川県)	岩国市(山口県)	桶川市(埼玉県)
駒ヶ根市(長野県)	勝山市(福井県)	南魚沼市(新潟県)	岩美町(鳥取県)	大子町(茨城県)

学校法人日本体育大学を軸としたネットワークを構築し、地域を活性化することで、幅広く社会に貢献していきます

## 懇親会

